

2 訪日旅行商品の概況

関西方面（大阪府・京都府）の人気継続
訪問地が多様な台湾・香港

(1) 団体旅行商品の概況

団体旅行商品の利用率が高い台湾、香港、中国を調査対象として当財団が独自に実施した「訪日団体旅行商品調査」^(※)の結果をもとに、これらの国・地域における2018年夏の訪日団体旅行商品の概要を整理する。

●団体旅行商品の訪問地

都道府県別訪問地ランキングを表Ⅱ-3-1に示す。台湾では北海道、大阪府、千葉県、香港では大阪府、東京都、兵庫県、中国では東京都、京都府、大阪府が上位3位となった。2017年同様、大阪府はいずれの国・地域においても上位3位以内に入る結果となった。

台湾発の訪日旅行商品は、福島県、高知県を除く都道府県への訪問が、香港発の訪日旅行商品では、全都道府県への訪問が確認された。台湾、香港の訪問地が特定の都道府県に集中することなく多様である傾向に2017年と大きな変化はなかった。

一方、中国発の訪日旅行商品は、大都市である東京都、大阪府、富士山を有する山梨県、静岡県、歴史的観光地である京都府や奈良県など、ゴールデンルート上にある都道府県の訪問率が高い。また都道府県別に訪問率をみると、訪問のない県が12県あるのに対し、訪問率上位5位は約30%～60%の訪問率となっていることから、一部の都道府県への訪問が集中している（表Ⅱ-3-2）。

※（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」調査概要

調査時期：2018年6月21日～29日

2018年7月20日～26日

調査対象：旅行会社8社（台湾3社、香港2社、中国3社）

有効商品数：【台湾】715商品

7月発：358商品／8月発：357商品

【香港】190商品

7月発：107商品／8月発：83商品

【中国】374商品

7月発：188商品／8月発：186商品

（7月と8月に同一の商品が販売されている場合は1商品とした）

表Ⅱ-3-1 都道府県別ランキング

	台湾	香港	中国
1位	北海道 (156)	大阪府 (61)	東京都 (226)
2位	大阪府 (151)	東京都 (43)	京都府 (211)
3位	千葉県 (147)	兵庫県 (38)	大阪府 (202)
4位	京都府 (144)	千葉県 (34)	山梨県 (194)
5位	東京都 (139)	京都府 (29)	奈良県 (133)
6位	神奈川県 (100)	北海道 (25)	北海道 (90)
7位	奈良県 (99)	岐阜県 (23)	静岡県 (83)
8位	熊本県 (97)	愛知県 (23)	神奈川県 (76)
9位	福岡県 (95)	香川県 (23)	千葉県 (64)
10位	山梨県 (90)	徳島県 (22)	福岡県 (26)

資料：（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」（2018年7・8月出発分）
※カッコ内の数字は商品数を示す

表Ⅱ-3-2 都道府県別団体旅行商品数と訪問率

地方 ブロック	都道府県	台湾		香港		中国	
		商品数	訪問率	商品数	訪問率	商品数	訪問率
北海道	北海道	156	21.8%	25	13.2%	90	24.1%
	青森県	28	3.9%	3	1.6%	15	4.0%
	岩手県	25	3.5%	5	2.6%	2	0.5%
	宮城県	30	4.2%	5	2.6%	0	0.0%
	秋田県	32	4.5%	2	1.1%	2	0.5%
	山形県	9	1.3%	2	1.1%	9	2.4%
東北	福島県	0	0.0%	2	1.1%	0	0.0%
	茨城県	8	1.1%	7	3.7%	0	0.0%
	栃木県	4	0.6%	11	5.8%	2	0.5%
	群馬県	16	2.2%	6	3.2%	0	0.0%
	埼玉県	21	2.9%	13	6.8%	4	1.1%
	千葉県	147	20.6%	34	17.9%	64	17.1%
関東東	東京都	139	19.4%	43	22.6%	226	60.4%
	神奈川県	100	14.0%	15	7.9%	76	20.3%
	山梨県	90	12.6%	21	11.1%	194	51.9%
	長野県	83	11.6%	21	11.1%	11	2.9%
	新潟県	8	1.1%	2	1.1%	0	0.0%
	富山県	67	9.4%	19	10.0%	1	0.3%
北陸	石川県	62	8.7%	16	8.4%	3	0.8%
	福井県	15	2.1%	6	3.2%	0	0.0%
	岐阜県	73	10.2%	23	12.1%	14	3.7%
東海	静岡県	65	9.1%	16	8.4%	83	22.2%
	愛知県	64	9.0%	23	12.1%	15	4.0%
	三重県	20	2.8%	14	7.4%	7	1.9%
近畿	滋賀県	46	6.4%	14	7.4%	0	0.0%
	京都府	144	20.1%	29	15.3%	211	56.4%
	大阪府	151	21.1%	61	32.1%	202	54.0%
	兵庫県	81	11.3%	38	20.0%	14	3.7%
	奈良県	99	13.8%	19	10.0%	133	35.6%
	和歌山県	27	3.8%	16	8.4%	8	2.1%
中国	鳥取県	1	0.1%	3	1.6%	0	0.0%
	島根県	1	0.1%	2	1.1%	0	0.0%
	岡山県	6	0.8%	17	8.9%	2	0.5%
	広島県	6	0.8%	7	3.7%	0	0.0%
	山口県	18	2.5%	3	1.6%	1	0.3%
	徳島県	11	1.5%	22	11.6%	4	1.1%
四国	香川県	13	1.8%	23	12.1%	3	0.8%
	愛媛県	13	1.8%	8	4.2%	0	0.0%
	高知県	0	0.0%	8	4.2%	1	0.3%
	福岡県	95	13.3%	19	10.0%	26	7.0%
	佐賀県	32	4.5%	14	7.4%	11	2.9%
	長崎県	40	5.6%	17	8.9%	17	4.5%
九州	熊本県	97	13.6%	12	6.3%	12	3.2%
	大分県	86	12.0%	15	7.9%	18	4.8%
	宮崎県	30	4.2%	15	7.9%	0	0.0%
	鹿児島県	38	5.3%	13	6.8%	6	1.6%
	沖縄県	34	4.8%	13	6.8%	20	5.3%
	旅行商品数	715	—	190	—	374	—
調査旅行会社数		3社		2社		3社	

資料：（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」（2018年7・8月出発分）

(2) 出発国・地域別の旅行商品の特徴

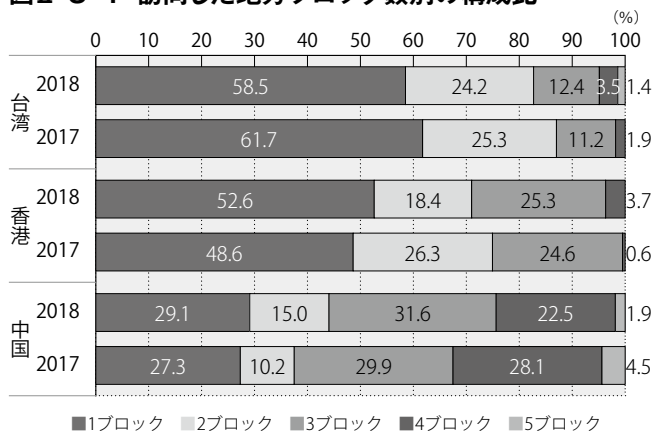
●台湾の団体旅行商品

台湾の団体旅行商品の旅程日数の平均は5.0日（2017年は5.0日）で昨年から変化はなかった。また、1旅行商品当たりの訪問した地方ブロック（北海道、東北、関東、甲信越、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11ブロック）数の平均は1.7ブロックで、ブロック数別では、1ブロックのみ訪問する商品が約6割となっている（図Ⅱ-3-4）。訪問ブロック数別構成比は2017年から大きな変化は見られなかった。調査対象国の中で1ブロックのみ訪問する商品の割合が台湾では最も多く、1ブロックや1都道府県での滞在時間が長いと、多様な訪問地が見られることが特徴である。

特徴的なツアーでは、フジロックフェスティバル（新潟県）、北海道マラソン、洞爺湖ロングラン花火大会の花火鑑賞船（以上、北海道）など、イベント参加を主目的としたツアーや、ガイド付き富士登山、利尻島や礼文島での登山・ハイキングツアーなどが見られた。

訪問上位都道府県別にみると、1位の北海道では、札幌市、富良野・美瑛周辺、小樽市、登別市、函館市など、中国や香港の訪日旅行商品でも訪問が多い観光地に加え、これらの周辺市町村への訪問も多く、道内の訪問先が多様であることが特徴である。2位の大阪府では、大阪市の心斎橋、道頓堀、大阪城、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンや、カップヌードルミュージアム大阪池田（池田市）、大阪府立狭山池博物館（狭山市）などの観光施設への訪問を中心に、大阪市以外にも訪問していることが特徴である。3位の千葉県は、東京ディズニーランド、東京ディズニーシーが主たる訪問地となるが、成田空港発着便を利用する商品では、空港付近のアウトレット、成田山新勝寺、ショッピングモールへの訪問が組み込まれている。4位の京都府は、京都市内のほかに、平等院鳳凰堂（宇治市）や、伊根の舟屋（伊根町）など、京都市以外への訪問も近年増えている。5位の東京都の主要な訪問地は、例年と大きな変化はないが、サンリオピューロランド（多摩市）、鬼太郎茶屋（調布市）などの観光施設の訪問を主目的として23区外の訪問も見られる。6位の神奈川県は、箱根町（箱根神社、芦ノ湖、大涌谷、星の王子さまミュージアム、箱根登山鉄道など）、鎌倉市（鶴岡八幡宮、鶴岡八幡宮小町通りなど）、横浜市（みなとみらい21、横浜赤レンガ倉庫、横浜アンパンマンこどもミュージアム）などが主要な訪問地となっている。7位の奈良県は、奈良市（東大寺、春日大社を含む奈良公園）、8位の熊本県は、熊本市（水前寺成趣園、熊本城等）、人吉市（球磨川下り）、阿蘇市（阿蘇）に加え、台湾でも人気のキャラクターであるくまもんをデザインしたくまモン列車の乗車体験が含まれている。9位の福岡県は、福岡市を中心に、柳川市、太宰府市、北九州市が主要な訪問地である。10位の山梨県は例年と変化なく、富士山周辺（忍野八海、富士五湖、富士急ハイランドなど）のスポットに訪問する商品が多く、富士五湖周辺でのサイクリング体験なども見られた（表Ⅱ-3-3）。

図Ⅱ-3-4 訪問した地方ブロック数別の構成比



資料：（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」（2017・2018年7・8月出発分）

表Ⅱ-3-3 台湾発の団体旅行商品の主な訪問地

順位	都道府県	主な訪問地
1位	北海道	札幌市、小樽市、登別市、函館市、富良野・美瑛周辺、洞爺湖周辺
2位	大阪府	大阪市（大阪市街、USJ）、池田市（カップヌードルミュージアム大阪池田）
3位	千葉県	浦安市（東京ディズニーリゾート）、成田市（成田山新勝寺等）
4位	京都府	京都市（清水寺周辺、伏見稲荷大社、八坂神社等）、宇治市、亀岡市、伊根町
5位	東京都	墨田区（東京スカイツリー）、台東区（浅草）、お台場周辺、多摩市（サンリオピューロランド）
6位	神奈川県	箱根町、横浜市（みなとみらい21、横浜赤レンガ倉庫、横浜アンパンマンこどもミュージアム）、鎌倉市
7位	奈良県	奈良市（奈良公園等）
8位	熊本県	熊本市（水前寺成趣園、熊本城等）、人吉市（球磨川下り）、阿蘇市（阿蘇）
9位	福岡県	福岡市、柳川市（柳川川下り）、太宰府市（太宰府天満宮）、北九州市（門司港）
10位	山梨県	富士山周辺（忍野八海、富士五湖、河口湖、富士急ハイランド等）

資料：（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」（2018年7・8月出発分）

●香港の団体旅行商品

香港の団体旅行商品の旅程日数の平均は5.2日（2017年は5.1日）で昨年からの大きな変化はなかった。訪問した地方ブロック数の平均は1.8ブロックとなった。ブロック数別では1ブロックのみ訪問する商品が最も多く、2017年から4.0ポイント増加している。このようにひとつの地方ブロックをゆっくり楽しむ商品が多い傾向は台湾と共通しているが、一方で、3ブロックを周遊する商品では、台湾が1割程度であるのに対し、香港は3割程度となっており（図Ⅱ-3-4）、周遊型商品も一定程度販売されている。

訪問上位都道府県別では、1位の大阪府では、大阪市の難波、心斎橋、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、大阪城、関西国際空港発着便を利用する商品を中心にりんくうプレミアム・アウトレットの訪問が見られる。2位の東京都では、新宿、東京スカイツリー、お台場（レインボーブリッジ、DiverCity Tokyo Plazaなど）、浅草（浅草寺、仲見世商店街など）など、主要な観光スポットを中心に訪問する商品が多い。3位の兵庫県では、神戸市（神戸ハーバーランド、神戸アンパンマンこ

どもミュージアム&モール、六甲山など）が多く、4位の千葉県では、浦安市の東京ディズニーランド、東京ディズニーシー以外では、マザー牧場や鴨川シーワールドなどの観光施設や県内のアウトレットモールへの訪問が多い。5位の京都府は、京都市内以外では、宇治市への訪問も見られる。6位の北海道は、札幌市（狸小路商店街、白い恋人パークなど）、小樽市（小樽運河周辺、小樽オルゴール堂、北一硝子など）、登別市（登別マリンパークニクス、登別地獄谷、登別伊達時代村など）、函館市（函館山、五稜郭、金森赤レンガ倉庫など）、富良野・美瑛周辺（四季彩の丘、アルパカ牧場、白金青い池など）が主な訪問地である。7位の岐阜県では、高山市（さんまち通りの街並み）、白川村（白川郷）、飛騨市（飛騨古川の街並み）の訪問が中心である。また、郡上市での食品サンプル作り体験なども見られる。同じく7位の愛知県は、名古屋市街に加え、レゴランド・ジャパン、シーライフ名古屋など、家族向けの観光施設を訪問する商品が多い。同じく7位の香川県では、高松市（栗林公園、玉藻公園）、瀬戸大橋を渡り本州側へ移動する商品も多い。また、香港で人気のある日本食・うどんの手打ち体験が含まれていることも特徴的である。10位の徳島県は、昨年の7.4%から11.6%へと4.2ポイント上昇した。例年8月に徳島市で開催される阿波おどりや、三好市（大歩危・小歩危、祖谷溪）などが主な訪問地である（表Ⅱ-3-4）。

表Ⅱ-3-4 香港発の団体旅行商品と主な訪問地

順位	都道府県	主な訪問地
1位	大阪府	大阪市（難波、心斎橋、大阪城、USJ）、泉佐野市（りんくうプレミアム・アウトレット）
2位	東京都	新宿区、墨田区（東京スカイツリー）、台東区（浅草）、お台場周辺
3位	兵庫県	神戸市（神戸ハーバーランド、神戸アンパンマンこどもミュージアム&モール、六甲山等）
4位	千葉県	浦安市（東京ディズニーリゾート）、富津市（マザー牧場）、鴨川市（鴨川シーワールド）
5位	京都府	京都市（清水寺周辺、伏見稲荷大社、八坂神社等）、宇治市
6位	北海道	札幌市、小樽市、登別市、函館市、富良野・美瑛周辺
7位	岐阜県	高山市（さんまち通りの街並み）、白川村（白川郷）、飛騨市（飛騨古川の街並み）
	愛知県	名古屋市（名古屋街、レゴランド・ジャパン・リゾート、シーライフ名古屋等）
	香川県	高松市（栗林公園、玉藻公園）、坂出市（瀬戸大橋記念公園）
10位	徳島県	徳島市（阿波おどり）、三好市（大歩危・小歩危、祖谷溪）

資料：（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」（2018年7・8月出発分）

●中国の団体旅行商品

中国の団体旅行商品の旅程日数の平均は6.1日（2017年は6.2日）で昨年からの大きな変化はなかった。また、訪問した地方ブロック数の平均は2.5ブロック、ブロック数別では3ブロック（31.6%）が最も多く、次いで1ブロック（29.1%）となっている。なお、1ブロックを訪問した商品の割合は18.6%（2016年）、27.3%（2017年）と、年々増加している。これまでは、一度の旅程で複数の地方ブロックを周遊する商品（例：ゴールデンルート周遊商品）が主流だったが、地方ブロック単位で周遊する

商品が増え始めている（図Ⅱ-3-4）。

訪問上位都道府県別では、1位の東京都は、皇居、銀座、浅草（浅草寺、仲見世商店街など）、秋葉原（免税店など）、お台場（Diver City Tokyo Plaza、MEGAWEB、お台場海浜公園、日本科学未来館）が主な訪問地となった。2位の京都府は、表Ⅱ-3-5中の訪問地に加え、着物や茶道などの日本文化の体験が組み込まれている。2018年は、伊根の舟屋などがある伊根町への訪問が確認された。また伊根湾での遊覧船や嵯峨野のトロッコ列車などの乗船・乗車自体を楽しむ体験メニューも見られた。3位の大阪府は、大阪市内（大阪城、心斎橋、道頓堀、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンなど）と泉佐野市のアウトレットを訪問する商品が多い。4位の山梨県は、富士山周辺の忍野八海、富士急ハイランド、富士の駅地震体験館、5位の奈良県は、奈良市の奈良公園、6位の北海道は、札幌市（北海道庁旧本庁舎、白い恋人パーク、大通公園、狸小路商店街など）、小樽市（小樽運河、北一硝子、小樽オルゴール堂など）、登別市（登別地獄谷、登別マリンパークニクスなど）、函館市（函館山、五稜郭、函館朝市など）富良野・美瑛周辺（ファーム富田、美瑛パッチワークの路、四季彩の丘、美瑛の丘など）、が主たる訪問地となった。7位の静岡県は、富士山周辺の御殿場市（御殿場プレミアム・アウトレット、御殿場平和公園）、伊豆市（修善寺温泉など）裾野市（富士山資料館など）が主要な訪問先となっている。8位の神奈川県は、横浜市（元町公園、横浜中華街、山下公園など）、箱根町（大涌谷、芦ノ湖、箱根神社など）、鎌倉市（鶴岡八幡宮、鎌倉高校など）が主たる訪問地となっている。9位の千葉県は、東京ディズニーランド・東京ディズニーシーのほか、香港の訪日旅行商品と同様、鴨川シーワールドやマザー牧場が主要な訪問地となった。10位の福岡県は、福岡市街のショッピングモールや免税店のほか、太宰府天満宮（太宰府市）、門司港（北九州市）などが主要な訪問地となっている（表Ⅱ-3-5）。

表Ⅱ-3-5 中国発の団体旅行商品の主な訪問地

順位	都道府県	主な訪問地
1位	東京都	千代田区（秋葉原、皇居周辺）、中央区（銀座）、台東区（浅草）、新宿区（都庁）、お台場周辺
2位	京都府	京都市（清水寺周辺、金閣寺、伏見稲荷大社、嵐山等）
3位	大阪府	大阪市（大阪城、心斎橋、道頓堀、USJ等）、泉佐野市（りんくうプレミアム・アウトレット）
4位	山梨県	富士山周辺（忍野八海、富士急ハイランド、富士の駅地震体験館）
5位	奈良県	奈良市（奈良公園）
6位	北海道	札幌市、小樽市、登別市、函館市、富良野・美瑛周辺
7位	静岡県	御殿場市（御殿場プレミアム・アウトレット、御殿場平和公園）、伊豆市（修善寺温泉等）
8位	神奈川県	横浜市（元町公園、横浜中華街、山下公園等）、箱根町、鎌倉市
9位	千葉県	浦安市（東京ディズニーリゾート）、富津市（マザー牧場）、鴨川市（鴨川シーワールド）
10位	福岡県	福岡市、太宰府市（太宰府天満宮）、北九州市（門司港）

資料：（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」（2018年7・8月出発分）

(3) 地方ブロック別の旅行商品の特徴

地方ブロック別の訪問率を表Ⅱ-3-6に示す。各地方ブロック別の旅行商品は以下の通り。

●北海道

北海道はいずれの国・地域においても訪問率では上位10位に入る人気訪問地である。道内の主な立ち寄り先は全ての国・地域ともに小樽、札幌、富良野・美瑛、登別、函館などである。

北海道から本州の移動におけるフェリー（大洗～苫小牧間や青森～函館間など）の乗船体験や、くしろ湿原ノロッコ号の乗車体験のほか、道内の牧場でのエサやり体験なども組み込まれている。

●東北

東北への訪問率は台湾5.0%、香港3.7%、中国6.4%となっており、香港では11地方ブロック中、最も訪問率が低い。2017年との比較では、台湾(+2.4ポイント)と中国(+6.0ポイント)で訪問率が上昇した。主な訪問地は、青森県が弘前城（弘前市）、奥入瀬・十和田湖（十和田市）、宮城県が松島（松島町）、秋田県は角館（仙北市）などとなっている。

●関東

台湾、香港の訪問率が2～3割程度であるのに対し、中国では7割程度となっている。台湾が11地方ブロック中1位、香港が同3位、中国が同1位となっている。いずれの国・地域でも東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、栃木県、埼玉県、群馬県への訪問率は低いことから、域内の都県間で訪問率の偏りが大きいことが特徴である。

●甲信越・北陸・東海

甲信越・東海は、全ての国・地域で、富士山周辺の山梨県や静岡県観光地を訪問する商品が多い。2018年は台湾(+3.3ポイント)、香港(+1.8ポイント)で岐阜県の訪問率が上昇した。

北陸の訪問率は台湾、香港で約1割程度、中国では1%以下となった。特に中国では11地方ブロック中10位（中国地方と同率10位）となった。2017年との比較では台湾(+4.7ポイント)や香港(+2.0ポイント)で訪問率が上昇した。主な訪問地は、富山県が立山黒部アルペンルート、石川県が兼六園（金沢市）、能登半島、福井県が東尋坊（坂井市）などである。

注) 訪問地に「富士山」が含まれていて、商品紹介ページの中で訪問する登山口が明記されておらず、山梨県か静岡県か判断できない場合は集計の対象外とした。なお、富士山前後の訪問地の都道府県は明らかになっている場合が多いため、都道府県の訪問率推計に大きな影響はない。

●近畿

台湾、中国では11地方ブロック中2位、香港では1位となっている。全ての国・地域で大阪府、京都府への訪問率が高く、滋賀県や和歌山県への訪問率が低い。近畿ではたこ焼

き作り（大阪府）、握り寿司体験（大阪府・奈良県・京都府）などの海外でも人気のある日本食の調理体験が組み込まれている。

●中国・四国

中国地方を訪問する商品は台湾が3.5%、香港が12.1%、中国が0.8%となっている。台湾（11地方ブロック中10位）や中国（同北陸地方と同率10位）ではほかの地方ブロックと比較して訪問率が低い。四国地方も台湾が2.1%、香港が12.6%、中国が1.1%となっており、中国地方と同様、台湾や中国で訪問率が低い。2017年との比較では、香港で+2.8ポイントとなっている。地方ブロック内の県別訪問率では、台湾では山口県が高く、錦帯橋（岩国市）や赤間神宮（下関市）を訪問し九州へ移動（またはその逆）する旅程が多い。また、香港では岡山県への訪問率が高く、県内での桃狩り体験が組み込まれている。

●九州・沖縄

2016年以降、台湾の九州への訪問率は約2割で安定している。2017年との比較では、香港は-8.6ポイント、中国は+4.6ポイントとなっている。特に香港では16年以降、九州への訪問率が年々低下している。地方ブロック内での県別訪問率は全ての国・地域で、九州南部（宮崎県や鹿児島県）の訪問率が低い。

沖縄県内の訪問地は、国際通り・首里城（那覇市）、万座毛（恩納村）、残波岬（読谷村）などに加え、沖縄美ら海水族館など観光施設への訪問も多い。近年では、泊いゆまち、糸満市お魚センター、道の駅かでななど、地域産業と関わり深い商業施設への訪問も増加している。また、黒糖や塩の製造体験などが組み込まれている。

表Ⅱ-3-6 地方ブロック別の訪問率

(単位: %)

	台湾			香港			中国		
	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016
北海道	21.8	20.3	20.4	13.2	17.1	15.9	24.1	19.7	22.7
東北	5.0	2.6	2.8	3.7	8.5	4.0	6.4	0.4	0.9
関東	27.4	21.0	17.4	22.6	22.0	14.9	66.0	80.9	75.9
甲信越	23.9	23.4	18.0	20.5	18.3	13.4	51.9	63.5	58.0
北陸	11.2	6.5	9.3	11.1	9.1	7.0	0.8	0.9	0.2
東海	21.3	16.0	12.3	27.9	21.3	16.4	28.9	46.7	57.8
近畿	24.5	23.4	24.9	33.7	28.0	33.3	59.9	68.9	60.2
中国	3.5	10.3	9.8	12.1	20.1	19.4	0.8	0.5	1.1
四国	2.1	5.7	4.5	12.6	9.8	8.0	1.1	0.0	0.2
九州	19.7	19.9	18.3	15.8	24.4	28.9	7.8	3.2	6.4
沖縄	4.8	4.3	8.5	6.8	8.5	14.4	5.3	7.3	5.5

資料: (公財) 日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」(2016・2017・2018年7・8月出発分)

(柿島あかね)